

予 算 要 求 資 料

令和 3 年度当初予算 支出科目 款：農林水産業費 項：林業費 目：林業振興費

事業名 林業経営実態調査事業費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

林政部 森林整備課 担い手企画係 電話番号：058-272-1111 (内 3197)

E-mail: c11515@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 775 千円 (前年度予算額：800 千円)

<財源内訳>

| 区 分 | 事業費 | 財 源 内 訳 | | | | | | | |
|-----|-----|------------|------------|------------|----------|-----|-----|-----|------------|
| | | 国 庫 支出金 | 分担金 負担金 | 使用料 手数料 | 財産 収入 | 寄附金 | その他 | 県 債 | 一 般 財 源 |
| 前年度 | 800 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 800 |
| 要求額 | 775 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 775 |
| 決定額 | 775 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 775 |

2 要求内容

(1) 要求の趣旨 (現状と課題)

平成 23 年度に大型合板工場、平成 27 年度に大型製材工場等が県内に建設され木材需要が高まり皆伐及び再造林が増加することが予想される。

近年、野生鳥獣 (主にニホンジカ) の生息数の増加及び生息域の拡大により森林の被害は深刻な状況にあり、獣害による更新の阻害や防除にかかるコストの増加等は再造林を進める上での障害となっていることから、森林所有者等への聞き取り調査をはじめ、自動撮影カメラ等を用いた野生鳥獣の生息状況、植栽木の被害状況及び防除対策等の調査を実施する。

令和 3 年度は揖斐川流域で実施する。県内の森林面積は広く地域によって植生の違いが大きいことから県内全域で調査を行う必要がある。

(2) 事業内容

(ア) 事業目的・事業効果

野生鳥獣の生息状況と鳥獣被害の状況、防除対策等を調査し、持続可能な山林経営を検討する。

(イ) 内容

揖斐川流域において3箇所の調査を行い、今後植栽を行う森林所有者が適切に獣害を防除できる方法について検討する。

(3) 県負担・補助率の考え方

- ・県 10/10(一般財源)

※岐阜県森林づくり基本計画で定める「健全で豊かな森林づくりの推進」する調査のため、県が実施する。

(4) 類似事業の有無 無

3 事業費の積算内訳

| 事業内容 | 金額 | 事業内容の詳細 |
|------|-----|-----------------------------|
| 委託料 | 775 | 野生鳥獣の生育状況、植栽木の被害状況、防除対策等の調査 |
| 合計 | 775 | |

決定額の考え方

4 参考事項

(1) 各種計画での位置づけ

第3期岐阜県森林づくり基本計画

- 1 健全で豊かな森林づくりの推進、(1)災害に強い森林づくりの推進

(2) 国・他県の状況

国・他県での取り組みは無い。

(3) 後年度の財政負担

県内5流域で調査を行うため、令和2年度から令和6年度までの5年間で実施。

(4) 事業主体及びその妥当性

1) 事業主体：県(業務委託)

※当事業の受託先として、県内各地にて調査を行うことが可能なネットワーク等を有しており、円滑かつ効率的な調査ができることを条件に選定する。

- 2) 妥当性：本調査は、岐阜県森林づくり基本計画で定める「健全で豊かな森林づくりの推進」する調査のため県が実施することは妥当である。

事業評価調書

新規要求事業

継続要求事業

1 事業の目標と成果

(事業目標)

- ・何をいつまでにどのような状態にしたいのか
令和6年度までに県内の全5流域（長良川、揖斐川、木曾川、飛騨川、宮庄川流域）を調査する。

(目標の達成度を示す指標と実績)

| 指標名 | 事業開始前 | 指標の推移 | | 現在値 | 目標 | 達成率 |
|-------|-----------|-----------|------|-----------|-----------|-----|
| 調査流域数 | 0 (R1) | 1 (R2) | (R) | 1 (R2) | 5 (R6) | 20% |

○指標を設定することができない場合の理由

(前年度の取組)

- ・事業の活動内容（会議の開催、研修の参加人数等）
長良川流域の野生鳥獣の生息状況、植栽木の被害状況及び防除対策等の調査を実施。

(前年度の成果)

- ・前年度の取組により得られた事業の成果、今後見込まれる成果
長良川流域における野生鳥獣の生息状況、植栽木の被害状況及び防除対策等の調査をおこなった。
この調査により得られた結果については、今後、再生林を進める上での資料とし、林業普及活動に効果的に活かしていく。

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

| | |
|---|--|
| ・ 事業の必要性（社会経済情勢等に沿った事業か、県の関与は妥当か） ○：必要性が高い、△：必要性が低い | |
| (評価) ○ | 災害に強い森林づくり、森林の適正な管理につながるため、事業の必要性は高い。 |
| ・ 事業の有効性（指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか） ○：概ね期待どおり又はそれ以上の効果が得られている、△：まだ期待どおりの成果が得られていない | |
| (評価) ○ | 今後、増えると想定される再造林箇所の有効な更新方法を検討する上での基礎資料となる。 |
| ・ 事業の効率性（事業の実施方法の効率化は図られているか） ○：効率化は図られている、△：向上の余地がある | |
| (評価) ○ | 県下全域を広く調査することが可能な団体に対して委託を行うことで効率化が図られている。 |

(今後の課題)

| |
|---|
| 次世代につながる健全で豊かな森林づくりを進めていく上での課題を本調査により見つけ出し、今後の取り組みに有効に活かしていくことが必要である。 |
|---|

(次年度の方向性)

| |
|---|
| 健全で豊かな森林づくりを進めるための資料収集の一つとして重要であるため、今後も必要なテーマを定めて引き続き調査を行う。 |
|---|